

今月のコラム

ポタジェライフ実践中!?

今年還暦を迎え、今後の生活設計が益々重要と思える歳になってきたので、今実践しつつあるポタジェライフについて話したいと思います。

15年前に我が家に隣接する土地(約40坪)を購入し、園芸好きな家内が日々鍬や鎌を持ち花壇作りを始めたのが、今の様な鬱蒼とした庭になったスタートです。

家内は大好きなイギリス風の庭を造りたいと、私に無理難題を押しつけてきました。

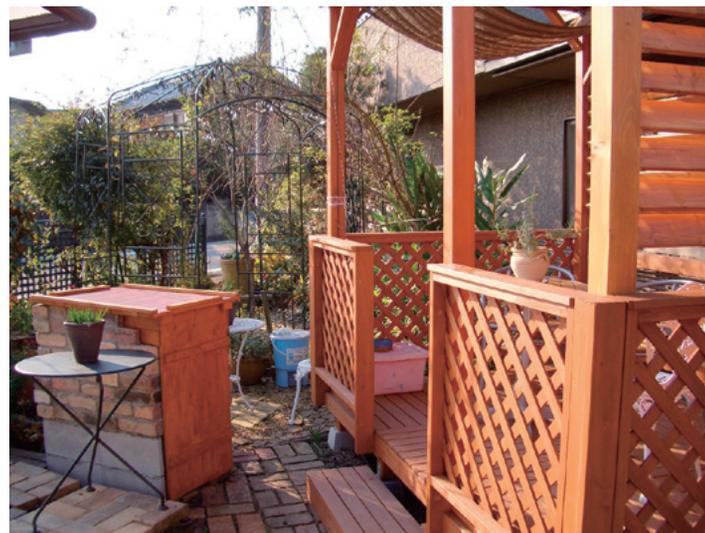
最初の頃は私もこの業界に身を置く人間として、意地にかけてもやらかなアカンと思い、土日の休みを毎週返上して、土木作業員・大工・タイル職人をやってきたわけです。

枕木は20～30本、レンガはパレットで500～600個、イギリス風な立体花壇セットやバラアーチ・ガゼボなどを設営したことをつい最近のように思い出します。

植物は家内が担当し、庭の造作は私が担当し殆どを2人で作ってきた庭です。

この庭には1年草が所狭しと咲き誇り、春と秋には毎年花苗を何トレーも買ってきては植え込んでいたことを思い出します。徐々に家内も癒されるはずのガーデニングに疲れてきて、宿根草と花木のペレニアルガーデンを目指し始めたのをきっかけにして、私も庭で時間を過ごせる空間作りを始め、ウッドデッキやピザ窯、バーベキューコンロ、料理ができる調理場までも作り始めました。これらが出来上がったのが2年前です。

今では春と秋の季節の花が咲く頃には、家族や友人、隣人、会社の人間とピザパーティーをしながら、「人間としての安らぎや家族のきずな」にポタジェガーデンは重要な位置付けになってくることを確信しています。



アップルウェア株式会社
丸山 盛生

70歳を過ぎ、80歳になっても家に閉じこもらず家の傍でアウトドアライフを家族や友人と満喫できる人生を夢見て今もポタジェガーデン作りを進化させています。

我々園芸エクステリア業界として、成熟した高齢化社会のど真ん中にある日本人に対してこのような生活が簡単に楽しめる提案をしていくことが重要な責務であり、又はビジネスチャンスでもあると考えます。



カエデ
kaede

“ポタジェガーデン”で勝ち抜く新ワークショップ商談会シリーズ第3回

設計施工、造園、緑化、EX・住宅メーカーなど幅広いジャンルから参加

“ポタジェガーデン”で勝ち抜く新ワークショップシリーズ第3回は「家庭菜園の魅力をもっと知ろう！提案しよう！！～庭づくりのプロに求められる『家庭菜園』（ポタジェガーデン）作りのポイント～」をテーマに11月26日15時よりリック東京本社会議室（東京都港区）において開催しました。設計施工、造園、緑化、EX・ブロックメーカー、住宅メーカーを中心に生産者も参加するなど、幅広いジャンルから参加がありました。

今回は、ワークショップ形式ではなく、パネルディスカッションとして行われましたが、後半では、参加者も質問したり、コーディネーターから指名されたりと、会場全体で話し合いが行われました。

まず主催した松原秀樹ライフデザイン部会会長（㈱リック社長）より、開催趣旨の説明を含めた開会の挨拶があったあと、（㈱リックの）小松正幸常務がコーディネーターとなって進められましたが、パネラーは自己紹介を兼ね、家庭菜園との関わりを話しました。

木村正典氏（東京農業大学農学部バイオセラピー学科准教授）は、マンション屋上のコミュニティーガーデンや小学校屋上、ベランダでの家庭菜園の実例を紹介。越洋子氏（越ガーデンデザイン事務所代表）は、地元長野県での一般家庭のガーデンに菜園を取り入れた実例を紹介。佐藤圭太氏（㈱プロトリーフ庭とくらし事業部部長）は、家庭菜園への一般生活者の関心度、受注実績を発表。坂田渉氏（北越農事（株）営業第二部次長）は、野菜苗を育種したり、小売に卸している立場から、野菜について話した。

後半では、「家庭菜園の意味」「家庭菜園の設計・デザインとは…・ゾーニング・設計の意味」「家庭菜園の注意点とは…・土・苗・肥料・連作障害など」「屋上、ベランダにおける家庭菜園とは」など、小松コーディネーターがテーマを出して、それに応える形で進められたが、まとめとしての「家庭菜園の今後の展開は…」では「農家とは

違うので難しく考えず、気軽に取り組むことが大事」「お洒落なコンポストキットなど消費者をリードするような入り口を造ることが大事」「失敗してもサポートしますよというスタイルで」などとなった。

会場では、越氏の共著「信州で楽しむナチュラルガーデニング」が完売され、また、情報交換会も大半の参加者が参加して盛り上がりました。



設計・施工、緑化関係者などに向けた家庭菜園セミナーは余りなく、多くのジャンルの参加者が集まったセミナー会場内は挨拶する松原ライフデザイン部会会長



右よりパネラーの木村氏、越氏、佐藤氏、坂田氏

憧れのイングリッシュガーデン 写真展

東京ミッドタウンで開催中、1月14日まで

ガーデニング界のパイオニア雑誌「ビズ」創刊100号を記念して11月14日より開催中。英国を代表する2人のガーデン写真家、アンドリュー・ローソン氏とジェリー・ハーバー氏（両氏ともビズ創刊号から写真を寄稿）が撮影した、ため息の出るほど美しいガーデンシーンが、フィルム技術では世界一の富士フィルムの技術によって、華麗なる花園へといざなう。会期中に吉谷桂子さん、上野砂由紀さん、C.W.ニコルさんのトークショーもある。入場無料。

URL <http://fujifilmsquare.jp/detail/09111401.html>



会場は東京都港区にある東京ミッドタウン、FUJIFILM SQUARE。



カエデ
kaede

日比谷ガーデニングショーで

E&Gアカデミー東京校が都知事賞

7回目を迎えた日比谷公園ガーデニングショーが10月24日から11月1日まで開かれたが、ガーデン部門の最高の賞、都知事賞に会員であるE&Gアカデミー東京校が受賞した。ガーデン部門は、13作品出品された中での栄誉。ガーデニングショーには、ハンギングバスケット127基、コンテナガーデン69基、また、会員であるRHSJエンタープライズ協力によるシンボルガーデンなども展示された。



RHSJエンタープライズが協力したシンボルガーデン



「en~円・宴・縁~」と題したE&Gアカデミー東京校の作品

花と音楽、体験教室、販売コーナーなど文化祭

東京テクノ・ホルティ

花と緑のスペシャリスト養成の東京テクノ・ホルティ園芸専門学校(東京都千代田区)では、今年で10回目を迎えたフラワーフェスティバルを「~花の街~ Flower with music」をテーマに10月23・24の両日、同校で開催。デモンストレーションや体験教室、販売コーナー、館内装飾など多彩なイベントの2日間を、学生を始め家族や知人、園芸関係者など多数が参加して楽しんだ。

「scale of flower~花の音楽祭2009~」では、今回のテーマは花と音楽の共演。「ジャズ」「クラシック」「ロック」の3つのステージに分かれ、男女がペアとなって音楽に乗ってリズムカルな動きとライトアップで、華やかにアレンジやコサージュを制作した。



立ち見が出たほどの人気の花の音楽祭ステージ

会員紹介

住友化学園芸株式会社

住友化学園芸株式会社は、おかげさまで2009年10月3日に創立40周年を迎えました。

これからも、企業理念である「花と緑を通じて、人々と社会に貢献します。こころを育てます。夢を育てます。未来を育てます。」を使命として、お客様から発想し顧客満足を創造する企業として、お客様に喜んでいただけるより良い家庭園芸商品をご提供させていただき、花と緑のもっと健やかな「あしたを育てる」をお手伝いしてまいります。

また2010年春に40周年記念商品として、弊社の人気商品ブランドであるガーデンドクターから、殺虫殺菌剤「ベニカXファインプレー」を新発売。

ガーデニングにおける新時代の「お庭のお医者さん」として自信を持ってお褒めいたします。植物の虫と病気でお困りのお客様に“これからはファイン”とご用命いただければ幸いです。



お問い合わせ

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町2-1-7

TEL 03-3270-9758

FAX 03-3270-9779

URL <http://www.sc-engei.co.jp>



カエデ
kaede

今月のコラム 菜園ブームの中で

「食の安全・安心志向」、「景気の後退で増えた余暇の利用法」、「地球温暖化やエコに対する関心の高まり」などに関連づけて、家庭菜園の話題が園芸雑誌の誌面によく取り上げられるようになってきました。今までのガーデニングと異なり、家庭菜園には「育てる楽しみ」、「収穫する楽しみ」、「調理をして食べる楽しみ」などシーン毎に話題があり、家族や近所の人との対話の時間も楽しみの一つにあげられます。

田舎育ちの私は、子供の頃から野菜や果樹を普通に自分の畑や庭で作り食べてきました。野菜や果樹を育てていると、自然に天候の変化や季節の移り変わりに目が向きます。緑に親しみ、土に親しみ、食育を通じ家族の交流も図れる家庭菜園やポタジェは、大げさな言い方ですがこれからの時代に光を投げかけているような感じを受けます。

弊社は10数年前から愛知県下のJAグリーンセンターにおいて家庭菜園向けの種苗の企画提案を行ってまいりました。農産物直売コーナーを併設したJAグリーンセンターでは生産者、一般消費者全てがお客様になります。企画生産した苗で出来た野菜をJAの農産物直売コーナーで販売し、買われたお客様が次の年に苗を買われ家庭菜園で育ててくれる、といった循環型に企画がまわっており、効率的に新商品開発の育成販売ができます。

今までは「他の人と違う、ちょっと変わった野菜を作りたい」、「他の生産者が出荷する前に出荷ができる品種がほしい」など農産物直売コーナー向けの品種も考慮に入れ新しい品種を提案してきましたが、最近は野菜栽培の経験のない若い世代のお客様や、定年退職された方が趣味と家族サービスの一環として家庭菜園を始められるケースが多くみられるようになってきました。

品種選びも「こだわった品種」から「作りやすい品種」、「病気に強い品種」、「植付から収穫までの栽培期間の短い品種」など育てやすく成果が早くみられる新規の方向けの品種選びも重要要素として選ぶようになり、品種の幅も広がりました。

ブームの中で人気を集めている家庭菜園ですが、収穫までこぎつけるには栽培のコツをつかむことが必要です。収穫の楽しみを味わうことで、また次の年も作ってみようという意欲が湧いてきます。

完成品に近い花付きの花壇苗と異なり、種や苗から収穫できる大きさまで育てるには、病気や害虫対策、長く収穫を楽しむための追肥や剪定、摘果などの栽培管理作業が必要となります。JAでは生産指導を専門に行う営農部署があり、専門的なお客様の問いかけに対してもお答えできる体制をもっています。

小さな菜園が大きな夢を生みます。多くのお客様から、「土、肥料、苗、資材」トータルで失敗しない、「JAの野菜は育てやすく美味しい」という声が聞けるよう努力していきたいと思えます。



株式会社JA東海グリーン
水野 経司



野菜苗売り場



ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

もう年末か、と思うとため息が出ますが、もうすぐお正月と思うとわくわくしてきます。1年間ご愛読、ありがとうございました。
◎新規会員登録、(有)グリーンパル(愛知県岡崎市、培養土メーカー)さん。ありがとうございました。